

2021年度作業療法科教育課程編成委員会 議事録

日時：2022年3月9日（水）14:00～15:00 オンライン開催

参加：青木英幸、三浦美紀、遠藤陵晃、名古屋和茂

オンライン参加：奥原孝幸、上羽航

（敬称略・順不同）

1. 開会 学校長挨拶

学校長青木より、コロナ禍にあり感染者が発生せず、予定通りに通常授業、実習とも滞りなく実施できたことを感謝している。旧カリキュラムと新カリキュラムが混在する状態の2年目であるが、少しずつ整理がされてきている。

2. カリキュラムについて

学科長三浦より説明がなされた。

1年生

- ・基礎分野の「解剖学」、「生理学」、「運動学」は互いに関連し合うため授業の連動をより密にする。上級生でも重要となっている科目だが、それぞれの担当の先生方と検討し、それぞれで補完する内容と学習時期も調整した
- ・前期の「解剖学」での、骨・筋系を実施してから、「運動学」を後期に開講する。
- ・「人体の構造と機能」は、OTガイドラインを確認し、栄養などを取り組む等、科目間で整理が進んだ。

2年生

- ・専門分野の評価が前期で終了。全ての評価学が終了せず実習にいく流れになっている。
- ・OTの流れの理解が不十分であったが、実習に行ってから、改めて理解を深めた様子。記録や自己学習の仕方なども実習指導者へお願いをした。

3年生

- ・評価実習を実施した。旧カリキュラムの為、同一年度で2,3年生が評価実習となり大変であったが、無事に終了することができた。

4年生

- ・旧カリキュラムでの実施。
臨床実習も滞りなく実施できた。

意見

奥原委員より

1,2年次の基礎的な内容は提案通りで良いと思うが、3年次以降の実習や現場レベルの体験が課題になるように感じる。実習では、指導者と一緒にやればできるレベルの学生であれば良いと思う。現場とリンクしづらい面があり、実習や体験が多いと学習の理解が進むかもしれない。そのため、シラバスに準じた講義を進めることが重要になってくる。また、実習後の理解などの落とし込みが重要である。大学でも現場と教育での到達目標の差があり、レディネス、社会性を重視している。到達目標をしっかりと明確にし、職業の理解を進めている。

⇒・旧カリキュラムで実習の置き方が変更となり、成績評価や実習先との連携が非常に重要となっている。

- ・1年は本来、臨床現場とYMCA 関連施設での実習を予定していたが、コロナの影響で、予定通り実施出来た学生と、学内実習のみの学生、その他など複数の体験となった。プレセミナーやポストセミナーでの情報共有を行い、理解を深めることに今年度は評価を行った。

工夫：1週間は各教員が自身の臨床経験を伝える

2週間は当初実習に行く分野の教員が、数名の学生を担当する

オンラインで現場の実習担当者と連携する

- ・2年は各教員に数名ずつ学生がつき対応した。
- ・3年は協力いただいた病院・施設などとオンラインでつながり、事例検討などを実施。
- ・今後は特に、学内実習において視聴覚教材の利用を進めていきたい。

3. 成績判定について（青木）

- ・退学者減少への取り組みのため例年、再試験は実施していたが、今年度から再々試験を実施するようにした。
- ・出席不足の学生は不足しているコマ数を手立て（補講等）し、受験資格を得て科目修了を目指せるように取り組んでいく。
- ・退学率は前年度 30.8%に対し、今年度は 18.5%の見込みとなる。

意見

上羽委員より

欠席分の課題などを提示し受験資格を整え、進級の基準がはっきりさせることは良いと思う。欠席に関しては自身で管理出来るようになることも大事である。

コロナ禍にあって学内でできる限界もあるので、現場に出てから学ぶことも多いと思う。

奥原委員より

大学では出席の制度がゆるい。科目担当教員に決定権があるので、各教員で対応の差がある。

また、全ての授業がオンラインは録画されているので、後日視聴し直し出席扱いとなったりする。

コロナ禍でもあるので、学校で基準を設けて進めれば良いと思う。

4. 閉会

本日いただきたい意見を反映させながら、学生支援の場面で実践していけるようにしていきたい。次回の委員会では、新カリキュラムに沿ったシラバスの改善等のご意見をいただけるようお願いしたい。

以上